

2025 年 6 月 4 日

学校法人三幸学園
横浜医療秘書専門学校
校長 大石 進 殿

学校関係者評価委員会
委員長 垣野 裕

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 垣野 裕 (社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院 医事管理部 部長)
- ② 中嶋 和夫 (大成建設株式会社 横浜支店 営業部 営業課長)
- ③ 佐々木 康人 (飛鳥未来高等学校 横浜関内キャンパス キャンパス長)
- ④ 田上 正義 (社会医療法人財団互恵会 大船中央病院 情報管理システム課
: 卒業生)
- ⑤ 坂本 紀典 (県立高等学校、私立専修学校 元校長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 6 月 4 日 (会場 横浜医療秘書専門学校 403 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 横浜医療秘書専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 大川 正裕

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 垣野 裕 様

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【教務】

授業アンケートの改善

- ・私語や居眠りがなく適切な授業環境だったか。 分野平均3.57 ⇒結果3.48（4段階評価）
 - ・この授業は興味をひくものでしたか。 分野平均3.64 ⇒結果3.59（4段階評価）
- ⇒授業アンケートにおいては、分野平均を昨年度も下回る結果となり、早急な授業改善が必要となる。

退学率

- ・2023年度 3.7%
 - 2024年度 7.2%と増加となった。
- ⇒大きな要因として、通信制高校出身者の中途退学が増加。精神疾患により登校ができない生徒の増加が多くみられた。

【広報】

募集は好調であった。

2023年度 171名入学者

2024年度 191名入学者 前年比から+20名増となり、医療秘書科は1クラス増やす運営となる。

特に通信制高校出身者の入学生は全体の3分の1近い人数となった。

地域 NO.1 の学校を維持できるよう今後も募集に注力していく。

【就職】

2023年度 100%

2024年度 96.65%(3月末時点)

3名の未決定者については、地域に限定した就職を希望していたため採用に至っていないことが要因。

引き続きフォローを行っていく。

就職への意識を高めるために、5月に医療機関説明会を実施し、延べ25件以上の医療機関の方をお呼びし学内で説明会を実施。

② 学校関係者評価委員会コメント

【通信制高校の退学傾向】

(佐々木委員)高校の退学要因で一番の多いのは目標喪失、心身不調。

高校の退学防止策としては5月・6月までに1回は来校させるという対策を行っている。早期に目標を見つける、やればできるという体験を積み重ねている。その結果、今年はまだ1回も来校していない人は3名ほど。

退学者の通信制高校出身者が多いことは責任を強く感じる。全日制出身者の状況も含め退学理由など算出していただけると高校でも対策を練ることができる。(医療秘書科・診療情報管理士科)

【就職受入れ状況】

(垣野委員)毎年、新卒は採用している。3～4年たつと他の仕事に憧れてファッションやコスメ業界、お休みや給料面から退職することが多い。そうすると中間層がいなく、継続させることが大切だと感じている。3年・4年続けると頑張れることが多い。退職理由もパニック障害や心身耗弱が多く、学生の際はコロナ禍であまり学校に行っておらず、毎日満員電車に乗って出勤すること、続けられないという相談も多い。

在校生も社会人でも同じことが起きている。それは面接ではわからず、内部的なことを聞くことも難しいと感じている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

職業観を伝え、将来構想をイメージさせることが難しい。

学んでいることが現場でどのように繋がっていくかが1年次に伝わりきらず目標喪失となる生徒が多い。

③ 今後の改善方策

医療機関の方と卒業生のお話を聞く機会を増やしていく。

医療秘書科において、全国シミュレーション大会の実施 結果：全国準優勝

⇒医療現場の方からのご指導を仰ぎ、よりリアルな現場を想定した授業展開と生徒の将来イメージの明確化

④ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

【医療機関での人材育成】

（垣野委員）丁寧に教えているが、新人の中には毎日同じことをしていると感じてしまい、一方では丁寧に何度も慣れるまで教えてくれると感じている。クリニックでは事務が何でもやらないといけないため、その新人に合ったスタイルで教えることが大切だと思う。業務を知らないよりは知っておいた方がいいし、アルバイトで何をやってたのかも大切。コミュニケーションを活かしていたかも重要。面接でもアルバイト経験があるとお話しが上手。（医療秘書科）

【在学時必要だと感じたこと】

（田上委員）高校生の頃は学校に行っていなかったが専門ではしっかり行くようになった。理由はグループワークや人と関わる機会が多く自分が輝ける場所があると思えたことが大きかった。自分の役割があると責任感から学校に行く意欲につながっていた。（診療情報管理士科）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

2024年度より人事制度の改正により、制度自体の職員の理解不足。

生徒の欠席増加により、欠時管理の担任業務負担。

② 今後の改善方策

人事制度について担任会議等で継続的に常勤メンバーへ伝える機会を増やす。

生徒の欠時連絡を講師と担任が連携をして行う。講師は Google クラウドルームを活用しタイムリーに生徒へ個別連絡、担任は全体の単位を把握し、本人・保護者へ適宜書面連絡。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

診療情報管理士の教員が不足しており他校の兼務をお願いしている状況。

常勤職員の若年化により、業界への理解と知識不足がある。

職員にむけた研修が不足している。

② 今後の改善方策

学校単独で採用ができるよう、引き続き活動を行っていく。卒業生や医療機関の方とも連携し、診療情報管理士資格の指導ができる講師を依頼していきたい。

若手・異動者が三幸グループの医療事務通信講座で資格を取得している。このような講座受講者を増やし、教員の知識向上を図っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【診療情報管理士勤務として】

(田上委員)診療情報管理士として働いている人が少ない。診療情報管理士としてではなく医事職員としてDPC業務に関わっている。ただし、診療情報管理士手当はある。(診療情報管理士科)

(垣野委員)入口は診療情報管理士としてではなく医療事務で勤務をしてもらっている。必ず診療情報管理士として働けるわけではない。ただ、3年制出身者は知識量が多く、医療機関としても助かる。職員でも持っている人は多く、診療情報管理士として働いている人は多くないため教えることが難しいのではないかと。資格手当も事務手当のみなので持っていて持っていなくても変わらない。(診療情報管理士科)

【離職防止のための研修】

(中嶋委員)入社後は建築、経理、語学などの研修を行う。3年・5年・10年の区切りで実施。離職をしないように対策はしているが離職率は高い。簡単にやめる人が多い。(医療秘書科・診療情報管理士科)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

任意検定、上級検定への取得率を上げていく。

入学者の学力不振や勉強方法の分からない生徒の増加。

通信制高校出身者増加による、退学者の増加と週5登校が難しい。

② 今後の改善方策

学内での就職説明会を実施の強化。

担任・教科担当から検定取得の大切さを伝える。

検定 WEEK、スタディサポートの継続した取り組みと教科チーフを中心に講師と連携し、検定取得に向けた意識付けと指導方法の情報交換を行う。

通信制高校出身者の増加により、ハイフレックス授業(オンラインと対面授業)を導入。通学スタイルを多様化していく。

1年次クラスの時間割を、朝9時からを全て10時登校スタイルへ変更。

メンタル面で登校不安な生徒に対して、担任のみの対応ではなくスクールカウンセラーと連携し1日でも登校ができるように支援をしていく(トイレにスクールカウンセラーの案内文の掲示など)。

三幸グループの日本教育クリエイト(人材派遣)に卒業後の転職など促しを継続。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【資格取得について】

(坂本委員)資格は目標に対して継続できる人材であると客観的に証明できるものなので、しっかりと生徒に取得させることが大切。そのために個々へのアプローチは大切。柔軟な対応も大切だが最終的に社会に出て働ける人間に育てることが大事なので、それまでのステップをしっかりと作る。スクールカウンセラーは担任の先生とは違う視点があると思うので、連携して積極的に活用すべきだと思う。(医療秘書科・診療情報管理士)

【退学防止策】

(佐々木委員)逆に高校では9時から設定している。来る子は来るし来ない子は来ない。ステップアップさせている。スクールカウンセラーは2名在中している。週に12コマほど開講していて7割ぐらいは埋まっている状態。高校分野での立ち位置をしっかりと明確にして専門的な知識で医療機関とつなぐか判断している。保護者も精神疾患を患っていることもあるため保護者にも一緒に入ってもらったこともある。学校で見えていくポイントがあれば教えてもらい担任に紹介をしてもらう。(医療秘書科・診療情報管理士)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

学生の相談に対して、スクールカウンセラーへの促し不足。

相談に対して、常勤メンバーの若年化による知識や経験不足ですぐに解決しきれない問題があった。

② 今後の改善方策

スクールカウンセラーの生徒への周知を広くおこなう。生徒全員が見るアプリでの告知、トイレなどの校舎内での告知の強化。

日々のタイムリーな情報はクラスチャットを活用し、担任会議で月に一度クラス状況の確認と生徒個人の状況確認を全教員で行うことで問題意識の向上を図る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【現場の休職者】

(垣野委員)休職者は出ている。就業規則では3か月になっている。それ以降、看護部では退職していることが多い。技術職は先輩に教えてもらえるかどうかが大きいため、先輩と「性格が合わなかった」などで休職退職に繋がる。産業医も設置していて極秘で相談ができるようになる。受け取り手次第になるのでパワハラも0ではない。最初は優しくがいいのか、社会人としての指導をしっかりするほうがいいのか難しいところだと感じている。(医療秘書科・診療情報管理士科)

【保護者との連携】

(坂本委員)高校では保護者会などで知ることが出来る。お子さんのできていることを最大限に褒めた上で、課題を伝える事が大事。若い教員は保護者対応の大変さで退職につながることもあるのでそのサポートも必

要だと思う。三者面談を実施してはどうか。保護者通信を作成してはどうか。(医療秘書科・診療情報管理士科)

(佐々木委員)高校と専門学校の違いは年齢。高校生は親を巻き込まないと決定権はないため、春に教員とタックを組んで卒業まで持っていけるようにしている。保護者と教員が味方になるように、なってもらえるように連絡している。高校ではオンラインで三者面談を行っている。(医療秘書科・診療情報管理士科)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

生徒数増加に伴い、教室、サードプレイス(フリースペース)の不足。

⇒放課後に生徒が自由に勉強をする教室や面談等の教室が不足をしている

病院実習では3週目に体調不良による欠席者や事前の指導不足により、実習態度が問題視された生徒が数名いた。

② 今後の改善方策

同じ校舎の飛鳥未来関内キャンパスにも協力をお願いし、教室不足時には借りことが出来るよう連携を図っていく。

病院実習では、事前の生徒指導を担当会議でしっかりと目合わせを行い十分な指導を行ったうえで実習にいかせたい。

また、医療機関や企業での入社前後(配属前後)の研修など、どのようなことを実施しているかご意見をいただき、指導にも反映していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【実習時期に関して】

(垣野委員)他の学校も含めて実習生が被らないようにしている。希望職種によって見学実習場所も変えている。昔は紙カルテの作業があったが今は電子カルテなのであまり作業がない。受付で場所を案内したり車いすを用意したり飽きてしまうかもしれない。学校の求める実習内容と現場の実際の内容が異なる可能性がある。面接する側としては実習に行ってもらった方が良い。実習の期間は何週間でもいいと思う。実際に見て就職希望の有無を決める事が多い。病院はゆつくり作業できる場所ではないと知ってもらうことが大切だと思う。クラークは医事所属、看護部所属など医療機関によって異なる。実習の濃さが異なることが申し訳なく思う。(医療秘書科・診療情報管理士科)

【実習時に指導してほしいこと】

(田上委員)個人情報を取り扱っているという認識が低い実習生が多い。PCを立ち上げたまま離席したり、メモをそのまま置いてしまったりすることが目立つ。(医療秘書科・診療情報管理士科)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

医療事務職、診療情報管理士の職業の魅力と認知をより広めていきたい。

② 今後の改善方策

医療機関の方、卒業生をお呼びしたイベントを開催し、高校生に現実味ある話を聞く機会を設けることで募集を拡大していきたい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

継続した法令順守の推進。

② 今後の改善方策

学園全体でコンプライアンス研修をオンデマンドで今後も継続的に実施をしていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

地域推進(関内エリア)においての貢献が不十分である。

② 今後の改善方策

地域活動、ボランティア活動への積極的な参加をし、学校・専門学生の認知拡大をしていきたい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

学内において留学生と日本人が混在するクラスが発生する。

② 今後の改善方策

2025年度は学園全体でも留学生の受け入れを強化していくため、クラス全体、講師への理解や動機付けが必要となる。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・通信制高校出身者への対策

通信制高校出身者の入学者増加に伴い、登校する習慣のない生徒に向けたフォローが必要となる。

今後は、ハイフレックス授業などの通学スタイルを選択することや時間割の工夫などで退学低減に繋げていく

- ・地域連携の強化

周辺地域の方々とボランティア等を通じて、医療校の認知拡大。

医療従事者としての立ち居振る舞いを日々指導していく必要がある。